

妙智會

本部供養会 本殿・大講堂 4月28日
(ライブ配信にて)

宮本法嗣先生ご指導

Vol.22
2021.5.6
1/2

今日は日蓮大聖人さまが、清澄寺、旭が森で、朝日に向かって
お題目を十唱され立教開宗されました。

日蓮さまの大きなお力、お心なくして今私達がこの尊いお題目
を唱えることができないわけでありまして、今日はそういう意味
でも大変意味深き日でございます。

日蓮大聖人さまのお心を頂戴し、今日の尊き日の中で、今私達
が取り巻いている現状に対して、しっかりと向き合っていきたい
と思います。

信心深き方に対して、日蓮さまは、ご病気に対する指導をお手
紙に託されました。

今日はその事を皆さまに紹介しながら、私達にとって病に対す
る心構えをもう一度考えてみたいと思います。

1つは、私達は病気になると、どうしても疑惑を持ったりして
しまいますが、それではいけないのです。病をすることによって、
信仰の道を求める尊い道の良き縁を頂いていると、日蓮さまはご
指導されました。

お題目こそ、病の良薬であり、お題目を一心に唱えることによっ
て、全ての仏さまの温かい心を頂けると仰ってます。

そして、私は次のお言葉が意味深きことになると思います。そ
れは、病気だから死ぬとは限りませんという事です。

私なりに頂戴したことは、病気だからと言って、すぐに死ぬと
考えてはいけない。病気を怖がってはいけない。また、逆に言うと、
そういう因縁があるから、病気や怪我をするのかもしれない。

病は仏さまの計らいだと受け止めなさい。ここはなかなか難し
い所です。

日蓮さまは「人は病によって仏の心が起きます。私は法華經を世界で一番信じている人間である。だから私の言っていることは、間違いはない。法華經に対して、願い、祈りなさい。私達の願いは必ず通じるのだ。だからこそ、日々願い、祈るこれが必要だ。病イコール死ではない。逆に病は悟りの道を下さったと思いなさい。そして、法華經はあなた方を見捨てるはずがない。」このようにおっしゃいました。

今混乱している世の中で法華經を見捨てているわけであります。ならば願いが通じるはずがありません。

妙智會の法華經の行は、先祖供養と導きだと会主さまはおっしゃっております。

私達が、先祖供養と導きを見捨てているのであれば、結果を頂けるはずがない。

今日この日にもう一度日蓮さまのお心を改めて頂戴し、更なる精進、修行をお願い致します。

またもう1つ、陀羅尼經の中の最後の節目に書かれておりますが、鬼の魔力で熱病にかかる。その魔力の鬼達が、私達の修行を妨げるかもしれません。

この悩ます鬼というのは、私達が鬼の根性だということです。

ああでもない、こうでもないという私達の言動が鬼の根性なんです。このようなご時世に、この欲や鬼の根性が出てしまう。

だから私は昨年から、静かにしなさいよと言っているのです。

会主さまの最後の節分の時の私達に対するご指導が、「鬼の根性をとりなさい」。

それが、日蓮さまのお心でもございます。

それを頂戴した妙智会員は、今この状況の中で、鬼の根性をとる修行をしていくことです。